

第9回 ふくまる夢たまごセミナー

日時	2019年12月6日(金)18:00~20:00
場所	市庁舎7階大会議室
内容	講話「教師ほど犯罪的な職業はない」 ～どんな教師をめざすのか～ 講師：鎌田 富夫 氏（元池田市立池田小学校校長）

第9回ふくまる夢たまごセミナーは、「教師ほど犯罪的な職業はない」という刺激的なテーマのもと、塾生18名が参加して開催されました。

講師には、昨年度までこのセミナーのアドバイザーを務めていただいた鎌田先生（元池田小学校校長）にお越しいただき、長きにわたる教育現場での経験をもとに、貴重な話を聞かせていただきました。



鎌田先生が塾生に問いかけました。

「算数の問題です。8時50分に駅に着きたいと思います。駅まで30分かかります。何分に家を出ればよいでしょう。」

「子どもの答えは、8時15分、理由は8時20分に出るとぎりぎりだから、でした。」

「この答えは、×ですか、○ですか。」

塾生は、教育が管理や教師の都合で進められていないか、教育が「狭育」になっていないか、という鎌田先生の言葉に引き込まれていきました。

続けて、鎌田先生は、教育は遊びの延長であり、「興育」「驚育」「共育」でありたい、教育は「寛容さ」と「覚悟」でできている、と話されました。

鎌田先生からの樹木希林さんの言葉の紹介です。

法華經の藥草論品五番にね、太陽も雨もわけへだてなく降り注ぐって書いてあるの。だけど木の持つ性質で、うまく育つものもいれば、根腐れする樹もある。陽が当たりすぎて枯れるかと思えば、日陰だからきれいに咲く花もある。って、生徒も同じ。それぞれの性質によく耳をかたむけ聞いて、その子が一番輝く場所を共に探す。教育って教えるだけでなく寄り添い、共に育つことかもしれない。それが面白くなったら、ああ、教師になって幸せ一つっつヨ。 樹木希林



教育は人なり、「教師が最大の教育環境」という自覚を持ち、教師の犯罪性を心に秘め、「教師ほど素晴らしい職業はない」と言える教師をめざしてほしい、という鎌田先生の塾生に向けたメッセージで講演が終了しました。

<塾生の感想から>



○ 教育にも、「狭育」や「狂育」といったものに変化する可能性があることを知りました。鎌田先生が例で挙げていた「ひき算」の児童の考え方など、一見、模範解答と全く違っていても、解答の正誤も大事ですが、どうやって生徒が導き出したのかに着目し、生徒と一緒に考えていく教師になりたいと思いました。

○ 8:20 じゃ危ないから 8:15 と答えた子どもや鳥や金魚を書き足して式を立てた子どもなど、私たちの想像を超える発想があるということを改めて感じました。そういった子どもたちの柔軟な考えを認め深めてあげられるように、自分の視野も広げないといけないと思いました。「みんなちがって、みんないい」と「みんないっしょ」どちらも正しくて、矛盾しているところが難しいと思いました。この矛盾を、子どもたちと考えられるような学級づくりができればいいなと思います。

○ 鎌田先生からたくさんのお話がありましたが、鎌田先生が子どもの可能性をどれだけ尊重しているかが伝わり、自分も子どもが好きで教師を目指しているのでそこを大切にできたら、誰からも必要とされる先生になることに近づけるかなと思いました。

○ 教員が白黒を決めつけること、固定観念からだけでものを見ること、また教師の都合で授業を進めること等が、犯罪とも言えることにつながるのだと感じました。そして、それが意図せず行ってしまうことがあることに恐さがあると思いました。この可能性も心にとめながら、寛容さを大切にしたい教員になりたいと思いました。

